

「アメリカでの一年間」 W・N (アメリカ 2016-2017)

アメリカという国はでかい。人、もの、国土、すべてがでかい。それが僕の持っていたイメージだった。一年間の交換留学を通し、その印象はまったく変わっていない。むしろ強まった。

僕が JFK ニューヨーク空港について最初に入ってきた印象は、人の大きさだった。皆が皆大きかったわけではない。ただ一部の人が非常に大きかったためその印象が強くなってしまったのだ。風船のような人がちらほらと居た。また、送迎用のバンもでかかった。僕は身長が 190 センチ以上あるのだが僕よりも天井が高く、中はものすごくゆったりとしていた。

アメリカの食べ物も非常に大きかった。行く前から予想はしていたが、それでも驚くことが多かった。あちらのレストランの一人前は日本の二人前ぐらいの量がある。当然食べ切れない人がでてくるが、そういう人は店の人からタッパーをもらい中につめていた。次の日の朝食やスナックにしているらしい。アメリカは日本とちがい、食べ残しをしても何も問題がない。食べ残しはいつも冷蔵庫に入れていたため、冷蔵庫はいつも物であふれていた。

僕はもともと大食いだったため、アメリカのレストランはちょうどよかった。僕のお気に入りのレストランは wendy' s と言ひ、ファストフードレストランだ。日本でたとえるとちょうどモスバーガーが一番近いと思う。少なくとも月に一回 wendy' s に連れて行ってもらひ、トリプルというバーガーが二つ入っているハンバーガーを買っていた。また、アメリカのファストフードではジュースのおかわりが無料である。僕は毎回ファストフードを食べに行くときは、最低二回ジュースのおかわりをした。ホストパパは、「steve special」といひ、数種類のジュースを混ぜて飲んでいた。うまく配合されたときは絶品だが、大体の場合、まずかった。

人々は非常にフレンドリーだった。ある日、自転車ですこしサイクリングをしていたところ、身も知らずのひとに、「Hey bro, what' s up」と言われ驚きのあまり転びそうになってしまったこともあった。学校では見ず知らずの人にいきなり声をかけられることも多く、友達作りに苦労することは、殆どなかった。また、日本人というだけでアニメ好きの人からよく声をかけられ僕もアニメをよくみるのでアニメ好きの友達が増えた。

一年間の滞在は着いた頃ものすごく長いと思ったが終わってみればあっという間だと感じた。物凄く充実した一年をおくれて、帰って来て一ヶ月たったあとも充実感に溢れている。

学校で所属していたロボティクスチームでの写真
皆、学年が違うがとても仲良しだった。

